

オンラインによる視察報告

実施日 : 令和3年5月27日、6月1日、6月2日

視察校 : ドルトン東京学園中等部・高等部

立命館小学校

富山県滑川市立西部小学校

学校法人茂来学園 大日向小学校

福島県矢吹町立矢吹小学校

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校

同志社小学校

京都教育大学附属桃山小学校

富山県魚津市立星の杜小学校

(実施順)

○学校の特徴

◆教師主導から「学習者中心」の教育へ

- ・ 自由と協働を原則とし、個人の能力を最大限に引き出す教育メソッドである「ドルトンプラン」の体現

◆活発なコミュニケーション⇔ 学びに没頭

- ・ ICTの活用により、時間や場所を限定しない学びが可能に
- ・ プロジェクト学習を中心とした主体的な学び

◆校舎のすべての空間を学習に利用できる環境

- ・ 学習装置としての校舎という発想
 - ・ コミュニケーションを誘発させるシームレスネットワーク
 - 教室とラーニングコモンスの連携、
 - 人をつなぎ、壁のないオープンな図書館
 - ・ 「うち」と「そと」の2つの環境がある校舎
 - ・ 生徒、先生のアクティビティが映えるインテリアプラン

○建物情報

所在地 : 東京都調布市
竣工年 : 1期工事: 2018年6月 (1期校舎竣工)
2期工事: 2021年1月～
(STEAM棟増築、1期校舎一部改修)
クラス数 : 14学級 (開校3年目: 中等部1年～3年のみ)
在籍: 343名 (中1: 101名, 中2: 100名, 中3: 142名)



◇オンライン会議より

- 複数の学年で形成される「ハウス」に加え、暫定的に学級担任制も併用。集団への帰属意識の形成にも配慮して空間構成や指導体制を工夫
- 時間割は一見普通の学校と変わらないが、一斉授業形式に偏らないよう意識しており、質問のある生徒が先生の周りに集まる、課題を自分のペースでやる、などのスタイルで授業を実施
- 設計段階から、通常の授業で生徒がラーニングコモンスなどに移動することを想定し、実際に活用している
- 教科に特化した学習環境を整備 (英語教室の半分をカーペット敷きにして自由に学べる設えにするなど)
- STEAM校舎のラーニングコモンスではグループ学習 (にぎやかなコミュニケーション) と個別学習 (静かな環境) の共存を想定し、音の対策として可動式間仕切りなどの工夫
- 壁の色、照度、スイッチの位置など、教員と設計者での綿密な打ち合わせに基づき教育の内容にあわせた空間づくりを構想から実施



校内での授業風景

コミュニケーションを誘発させるシームレスネットワーク型プラン

○学校の特徴

◆京都の地域に根付く体験型教育

- ▶ 陶芸、茶道、プログラミング学習、連携する大学との国際交流

◆1人1台の先進的なICT環境

- ▶ 低学年時は学校貸与のタブレット端末から、高学年では個人購入のコンピューター端末によるデバイスの環境形成

◆デバイス環境に対応する教室

- ▶ 教室とオープンスペースで自由に学べる環境
- ▶ プロジェクト学習を中心とした主体的な学び
- ▶ ホワイトボード、プロジェクター、電子黒板を活用した学習環境の構築

○建物情報

所在地 : 京都府京都市北区
竣工年 : 2006年竣工、2008年一部改修、2013年一部改修
クラス数 : 24学級



◇オンライン会議より

- 各学年に分散した職員室により、4クラスと教員室が一体となったフロア構成
- 1年生から6年生までハウスを担当する同じ先生が見守る仕組み
- 全職員が一同に顔を合わせることができる中心的な職員室や連絡アプリによる教職員の連携強化の構築
- 1人1台端末の多様な活動を促進させる「廊下を兼ねない」教室の側のオープンスペース
- 子どもたちがしっかりと話しあって作りこみを行うことができるホワイトボードと短焦点プロジェクターを組み合わせた「コミュニケーションルーム」
- 「コミュニケーションルーム」といった教科を連想させない教室のネーミング
- 裏千家監修の本格的な茶室や電動ろくろ、顔料、染料などが使える子どもにとって非日常的空間である「本物から学ぶ」ことができる環境の形成



コミュニケーションルームでの学びの風景

オープンスペースのある教室環境



○建物情報

所在地 : 富山県滑川市
竣工年 : 1977年校舎竣工
2005年普通教室棟増築
2008年大規模改修・耐震補強工事完了
クラス数 : 17学級



○学校の特徴

◆ 既存校舎（改修）と増築校舎の活用

- ▶ 学級間にある空き教室を活用し、少人数指導に利用
- ▶ 地域の子どもの数に合わせ、毎年度、学年ごとに学級数を柔軟に変更
- ▶ 大規模改修により設置されたランチルームや多目的ホールなどを、地域交流に利用するなど有効に活用

◆ 豊かな学習環境

- ▶ 北アルプスの立山連峰を望み、田園地帯に宅地造成の進む学校環境
- ▶ 木質化による温かみのある教室環境

◆ 広い空間を活かしたデザイン

- ▶ ワークテラスやオープンスペースなど、体験学習が可能なフロア構成
- ▶ 広いスペースを仕切る可動ロッカーの配置による子どもの動線の構築

◇ オンライン会議より

○教室と連続している広いワークスペースにより、学年集会など学年で共有することのできる環境に、少人数での授業などは教室間にある空き教室を活用するなどゾーニングを図っている

○教員と設計者で事前に打ち合わせして作った2室あるうちの1室は一段高くなった音楽室

→簡単に収納できる可動式間仕切りにより、開放することで1室をステージのような利用を行うことができる

→教員間での設計の当初の意図を継承

○大規模改修により作られた情報学習室の一つを「外国語教室」として活用

○普通教室に必要な規模のスペースに加え余白スペースを設けることにより、ロッカースペースなどの配置に伴う、教室の手狭さの解消



学級間にある空き教室

教室と連続するワークスペース

2室の音楽室を一体として利用している様子

○学校の特徴

◆廃校を活用した学校

- ▶ 体育館や図書館、廊下の設えなど既存の良さを活かしたリノベーション
- ▶ 廊下に畳のスペースをつくる、食堂を木質化するなど

◆教室を居心地の良い生活空間に

- ▶ 1人1人の個性を重視した学び
- ▶ 授業や体育館の使用など学年を越えた子どもの交流
- ▶ 子どもと教員が話しやすい環境をつくる「サークル」に配置されたベンチ
- ▶ 黒板がなく、ホワイトボードや白い壁にプロジェクターで投影
- ▶ 一斉授業ではなく、子どもが「誰」と「どこ」で「何を」学ぶかを選択し自分のペースで進める学び
- ▶ 教室と廊下の間がガラス張りで視覚的に一体となる空間

◆地域社会に開かれたオープンな空間

- ▶ 近隣の図書館から本を借りることで充実している図書室
- ▶ 外部からでも食べに来られる子どもたちの食堂（大日向食堂）

○建物情報

所在地 : 長野県南佐久郡佐久穂町
竣工年 : (佐久東小学校)
1992年 竣工
2012年 閉校
2019年 改修
→大日向小学校を開校

◇オンライン会議より

○学習内容の表、週の計画表を作成し、生活科のような探求型の学習時間で各教科の学習内容に当てはまるものをその中でやるなど計画的な学習を実施

→学習指導要領の中の学習内容を把握した上で、教科書の前から進めるだけでなく、単元ごとに進める等、柔軟な学習計画

○子どもの自立によって、自席→教室内のベンチ→廊下・図書室などの教室外へ学びの場が変わっていく仕組み

→マグネットによる居場所の表示、教職員間のチャットによる情報共有

○学びのモチベーション → 学習することを大好きになるきっかけづくり

→ 学習が困難な子どもでも自分のペースでやることでしっかり取り組むことができ自信につながる

⇔ 宿題はない → もっと学びたい場合は外部の教材の使用、市販のテスト

○ベンチを入れることによるフレキシブルな状況づくり

→ 2つ目の学びの場（集まる場所＝コミュニケーションの取れる場）の形成

→ 学習する意欲の向上に

先生と学習内容を確認する場

子どもの学びの様子

○学校の特徴

◆ スーパーエコスクール

- ▶ ZEB化を目指した取り組み
- ▶ 太陽光発電システムによる省エネ化や環境教育の推進

◆ 多様な学びに対応する生活環境

- ▶ 教室間の折り戸により2室を一体として活用することができる設計
⇒ 壁の半分は固定のため、習熟度別学習や個別指導など教室間の境界を保ちつつ、多様な学びに対応できる仕掛け
- ▶ 床のドライ化による快適なトイレ
- ▶ 廊下に設置されたアルコーブ
- ▶ 黒板まわりに設置された収納スペース

○建物情報

所在地 : 福島県西白河郡矢吹町
竣工年 : 明治6年開校
 平成28年9月 大規模改修
クラス数 : 11学級



◇ オンライン会議より

- GIGAスクールに向けICT環境が整備されたことで、パソコン室を児童クラブに転用できた。授業では、電子黒板や51インチのテレビ、書画カメラなどを使用
⇒ タブレット置き場をフリースペースに設置
- 教員が教室間にある折り戸部分に立ち、2つの教室にいる児童に説明し、それぞれの教室で習熟度別などに分けて学習を行う
⇒ それぞれの教室に目配りを行うなどの利用とし、オープンスペースのような使用はしない
- 児童数減少に合わせ、教室数を減らし、2室を一体とした多目的スペースなどの広い教室や小さな教室を作ることで、多様な学びに対応できるようになっている
- 太陽光発電により、非常時に電気が使用できるよう蓄電されており、地域の防災拠点としての役割も果たす



授業風景



黒板まわりの収納スペース



教室間の折り戸

○学校の特徴

◆大崎上島の自然環境での学び

- ▶ 瀬戸内海の豊かな自然に囲まれた中で共同生活を行う全寮制の学習環境
- ▶ 学年や国籍を越えた交流

◆生徒の個性を最大限に生かす学習環境

- ▶ 各教科によって異なる場所で行われる教科教室制の授業
- ▶ 農園など地域の多様な事業者のもとへ行くインターンシップ活動
(未来創造科)
- ▶ 1人1台端末によるICT環境の整備

◆国際協働型プロジェクト学習

- ▶ 国際バカロレアのプログラムの一環として、地域への奉仕活動
- ▶ 生徒が自発的に活動を企画し実行する学習環境

◇オンライン会議より

- 教室の壁がほとんどなく開放的な教室（LL教室）、一部壁がないセミオープンな教室（CS教室）、壁で仕切られた教室（QS教室）をフレキシブルに組み合わせて使用することで授業に様々なバリエーションをもたせることができる学びの場
- 国際バカロレアのプログラムの一環として、地域の産業に取り組むインターンシップなどの地域との交流を行い、その中で課題を発見し解決する力を身につける学習プログラムの実践
- 必要に応じて端末を使用するICT環境
→課題の提出状況など生徒と先生のやり取りを保護者が共有できる環境
- 全寮制で不安にならないような教職員及び寮スタッフによる生徒の生活支援
- 英語での授業の実践といった国際色豊かな授業



生徒の学習環境



図書メディアセンター



日本文化の学習風景

教室の俯瞰図

よりオープンな教室

- LL
- CS
- QS

よりクローズな教室



CS クラススペース



クワイエットスペース QS



LL ラーニングラウンジ

6:30 AM Morning at the dormitory

○建物情報

- 所在地 : 広島県豊田郡大崎上島町
 竣工年 : 平成31年(1期工事竣工)
 令和2年(2期工事竣工)
 令和4年(3期工事竣工予定)
 クラス数 : 6学級(中学校)

is a morning call in the dorm

8:25頃に授業

○学校の特徴

◆「個別最適な学び」×「協働的な学び」

(個別最適な学び)

- ▶ 子どもの興味・関心に応じた学習スタイルや進度の個別化

(個別学習ブース、ホワイトボードで区切った仮設スペース)

(協働的な学び)

- ▶ 個々の学びを共有し、学びを深める発表や意見交流

(オープンスペース [ウォールギャラリー]、ラーニングcommons、可動式ホワイトボードによる発表)

◆ 1人1台のICT環境

- ▶ 4年生からタブレット端末の導入
- ▶ 授業配信、海外交流、プログラミング学習
- ▶ 教職員も1人1台PC+タブレット

◆ 曲線を多く用いたデザインの校舎

- ▶ 図書室やウォールギャラリーなど内包感のあるデザイン

○建物情報

所在地 : 京都府京都市左京区
竣工年 : 2006年竣工
クラス数 : 18学級



◇ オンライン会議より

○ 大きな天板の机 (新JIS規格)

→ 理科室の机が可動式となっており、授業内容や実験方法によって、学びの形態を自由に変えることができる

○ オープンスペースを活用するなど、教室以外でも学ぶことのできる場所を子どもが選ぶことのできる学習形態

→ 学年担任とサポーター教員で担当することによる授業のサポート体制

○ 教室内でタブレットを活用して調べたことや課題に対する考えを、小グループで交流する際に、可動式ホワイトボードに書き込むことで、アイデアを引き出し、思考を深める仕掛け

○ 「情報モラル学習」や「タブレットの機能制限」、「発表などの学習ツール (アプリ)」などの仕様を小中学校で揃え、進学時の円滑な学習の移行を可能にする仕組み

個別最適な学びの風景



図書室

ウォールギャラリー

○学校の特徴

◆ICT環境の先がけ的な取り組み

- ▶ 10年以上、1人1台端末や環境整備を実施

◆教師の創造力を喚起する教室デザイン

- ▶ 360度全面がホワイトボードとなっているため、教員が主体的に学びの場をつくり上げ、同時に子どもの学びが教室に広がる
 - ・ 主体的や対話的な学習環境の形成
 - ・ より良い学びの場について、教員間で模索し実践
- ▶ 教室間の壁が取り外せ2室を一体として使用可能

◆校舎内の環境を安価に整備

- ▶ 安価なモニターの購入
- ▶ 机自体を購入するのではなく、天板のみの取替えとするなど、安価に学習しやすい環境整備の実現

◇オンライン会議より

○ICT環境による学習のための施設整備

- ▶ グループでの学習環境がしやすいように机の高さを揃えた学習環境
→椅子をビジネスチェアとし、子どもたちがそれぞれ高さを合わせる
- ▶ 掲示しておきたい資料を残すために2画面のディスプレイ環境
- ▶ アウトプット学習用にホワイトボードを活用
- ▶ 教育の目的によるデジタルとアナログの使い分け
→端末：個別の考え ⇔ ホワイトボード：グループで共有する考え

○大きなスペースを生み出すことができるホワイトボード壁

- ▶ 教室間をホワイトボードで仕切り、複数のクラスで一斉授業を実施する際には、ホワイトボードを移動し、教室を拡張させる工夫
→モニターも2つの教室分となるので、真ん中にモニター配置可に

○学びの形態に合わせたレイアウトができる教室

- ▶ ノート指導が必要な低学年は、黒板を通信とした一斉の授業を実施
⇔個別やグループの学びができる高学年は教壇をなくし、全面ホワイトボードの教室とし、自由な学びに

○建物情報

所在地 : 京都府京都市伏見区
竣工年 : 1970年竣工
2000年南校舎新営・西校舎一部改修
2013年旧校舎改修
2020年東校舎改修

クラス数 : 12学級



全面ホワイトボードの教室

教室の風景

○学校の特徴

◆木造3階建ての学び舎

- ▶ 町のシンボル（遠景の視認性）
- ▶ 3校統合により、違う学校に通っていた子どもたちが新しい環境に対して、期待や不安がある中で、安心・落ち着き・温かさを包括する木造校舎
- ▶ 「主体性」「創意工夫」「協働」を必要とする「木育」を通した学び
- ▶ 地域に根付くミュージアムなどの空間

◆木の魅力を活かした学校

- ▶ 校舎に入った時の柔らかな木の香りに包まれる
- ▶ 木材による温かみのある光の空間
- ▶ 寝そべったり、座ったりできる子どもたちが憩いやすい環境
- ▶ 日当たり、自然採光、風通しなどに配慮した空間構成により、居心地の良いオープンスペースや教職員用のワークスペース



○建物情報

所在地 : 富山県魚津市
竣工年 : 令和2年竣工
クラス数 : 12学級

◇オンライン会議より

- 木育の環境が、統合後の不安の解消に貢献した（アンケート結果により）
- オープンスペースに柱があることで、襖のような仕切りができ、授業の形態に合わせた対応が可能（個別指導や特別な支援が必要な児童など）
- 教室そばにオープンスペースがあることにより、テストなど児童間の距離をとる必要がある場合に教室を広くすることが可能
⇒教室を広く利用する際には、児童の視認性を確保するために、モニターを配置するなどの工夫
- 教室の側にある教職員用のワークスペースによって、クラスの雰囲気や児童と教員が共有することを可能にしている
- 木の香りについて、保護者や外部の方から評判がいい
→自慢できる学校施設
- エントランスの吹抜けや木による光の温かさ、座って活動できる大階段など魅力的な空間構成

